

「守り」の防災から「攻め」の防災への転換

気象災害軽減 イノベーションセンター

「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ *

*「科学技術振興機構(JST)『イノベーションハブ構築支援事業』平成27年度F5採択・平成28年度本採択課題

近年、激化している異常気象災害の早期予測技術開発は急務です。

防災科学技術研究所が研究開発を進めている気象災害の早期予測技術をコアとして、次世代センシング技術、IoT情報技術、そしてリスクコミュニケーションを取り入れ、各ステークホルダーとの密接な連携により地域特性・利用者ニーズに応じた気象災害予測情報システムの社会実装を実現します。

雪氷災害

土砂災害

雷・風水害

実施中の 3プロジェクト+α

1

IoTを活用した地域防災システム開発



熊本県西原村布田



新潟県長岡市川口

地域の防災課題を IoT センサーを用いて住民と共に解決することにより、地域の防災力の向上と産業振興に貢献します。

2

大雪対応サプライチェーンマネジメントシステム開発



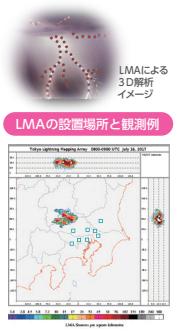
企業と協働で積雪観測網を構築し、物流に大きな影響を与える大雪時の積雪状況を分析・予測します。

3

首都圏の稠密気象情報提供システム開発



ゲリラ豪雨、竜巻、雷、降雹といった極端気象、さらには熱中症をまぬく暑熱環境や局地風を予測します。



防災新技術の性能評価・標準化



新たな防災技術の性能評価を大型実験施設を用いた、より現実に近い環境で行います。また、測定結果の証明や試験方法の標準化により、防災新技術の普及を目指します。





気象災害軽減
イノベーション
センター

Innovation Center
for Meteorological
Disaster Mitigation

気象災害に強い未来

気象災害軽減 コンソーシアム



一緒につくりませんか

ただいま
会員募集中!
2016年10月設立
入会無料

目的

気象災害軽減コンソーシアムは、近年、異常気象災害（豪雨、大雪、土砂災害等）が激化多発していることを踏まえ、地域特性・利用者ニーズに応じた気象災害予測情報提供システムの社会実装等による気象災害軽減の実現に向け、イノベーションの推進及び成果の利用促進等を図り、産学官及び市民の連携により課題を解決し、災害に強い社会を構築することを目的とします。

事業

- 1** 会員間の人材・技術・知見・経験の融合の推進
- 2** 社会ニーズや技術の進展・業界動向等の情報共有
- 3** 課題の抽出及び検討
- 4** 技術の開発・実証の推進
- 5** 会員間連携による外部資金導入の推進
- 6** 実験施設を利用した性能評価手法の標準化の推進
- 7** 防災教育システムに関する検討
- 8** その他、コンソーシアムの目的を達成する為に必要な事業

会員

- | | |
|---------|---|
| ① 法人等会員 | 法人、教育機関、研究機関、自治体、関係府省庁あるいは各種団体 |
| ② 個人会員 | 法人、教育機関、研究機関、自治体、関係府省庁及び各種団体のいずれかに属する個人 |

コンソーシアムの概念図

社会実装へ

ニーズからゴールを見据えた
検討・技術開発

ステークホルダーを含む多くの皆様との対話を通じ、「攻めの防災」に向けたスピーディな社会実装を目指します。

